

清掃センター跡地にメガソーラー

三重県津市 事業者決定し、来春着工

三重県津市は8月2日、白銀環境清掃センターの跡地で計画するメガソーラー発電事業について、いちごE.C.Oエナジー（東京・千代田、五島英一郎社長）を事業者に選定、協定を締結した。発電能力は約2メガワットで、2017年4月の事業着手を予定している。地球温暖化対策推進と新エネルギーの利用促進、遊休市有地の有効活用を図る考えだ。

同市が事業用地として提供するのは、清掃センター跡地の一部で、面積は3万6421・43平方メートル。貸付料単価は1平方メートル当たり125円（年間45万2678円）。ここに太陽光パネル1万728枚を設置する。想定年間発電量は345万6840キロワット時で、一般家庭963世帯分の年間消費電力量に相当。同2287トンの二酸化炭素削減効果を見込んでいる。

運転期間は20年間。計画では、地域貢献事業として毎年、売電収入の2%を環境教育または環境化への取り組みのために寄付。また、災害時や緊急時に活用できるクリーンエネルギー自動車等の寄贈を行う他、メガソーラー施設の発電量等の表示装置の設置などによる環境意識の啓発にも役立てるといふ。